



やまね便り

85号

MY BEST BOOK OF THE YEAR

図書館員私の推し本♡2024

私の内に流れる
魔法の血筋が、
負けるな!強く生きろ!
と訴えてくる



『ウェイワードの魔女たち』
エミリア・ハート／著
府川 由美恵／訳 集英社
17世紀、魔女裁判にかけられたアルサ。20世紀初頭のまだまだ男性に従うしかなかった時代に生きたヴァイオレット。そして現代、恋人のDVから逃れ続けるケイト。3人の血筋が織りなす抵抗と希望の物語。



お願い!魔法さま!
あなたの魔法で
あたしのミスを
なかったことに
してくれ〜



『魔女がやってきた』
マーガレット・マーヒー／作
尾崎 愛子／訳 徳間書店
ちよっぴりイジワルけど憎めない、
とっても食いしん坊、口は悪いけど
根はやさしい、そんな5人の魔女
が登場する5つの短編集。
あなたはどの魔女が気に入るから?



きゃ〜!せんばい、また今年も推し本の季節
がやってきましたねー。司書さんたち、今年
はどんな本を紹介してるんですかね?
せんば〜い、私たちは奇しくも二人そろって
魔女推しですね〜うふっ!



まあ、あんまりうれしくはないがな...



またまたあ〜、ところでせんばい、魔女と
言えば魔法の呪文。呪文と言えばやはり
ラミパス・ラミパス...とかですかあ〜?
あつ、それとも
テクニク・テクニカ・シャランラ〜
ですかね?



シジョコ、なんでまた、そんな昭和な呪文
しか浮かばんのだ...アッコにメグだと...まったく...
あ〜っシジョコ!さては魔法で若返りを
はかっているのか? 年齢詐称だな!



はあ〜?!せんばい、なにわけわかんない
こと言ってるんですか!そんな人には
アフラマハリック・マハリタカラ!
をおみまいするわ!



またまた チャッピだど...ブツブツ
そ・そうかシジョコ、こっそり
赤いキャンディ舐めてんのかつ! メルモ!



き〜っ!こうなったら
エクスペクト・パトロナム!



ハリボタ 魔女じゃないっつうの!
ビビルマ・ビビルマ・ブリリンバ...



ううっ、シキー こしゃくな!
リリカル・トカレフ・キルゼムオール!



...二人の大人げない戦いはまだまだつづくのであった.....

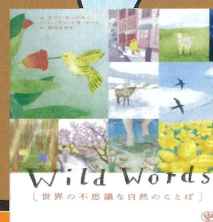
②① 自然を
まるごと楽しみ
味わうとは、
こういうことなんだ。



②② 拝啓、素子さま
今年最高に
笑わせて
いただきました!!



②③ まだ知らぬ
豊かな
世界のことはと
出会う旅



②④ 合格の鐘を
鳴らしてほしい
のはわたし!
「18番・♪夜桜おせ♪」



②⑤ 不思議な物語を
読みたいときに
ピッタリ



②⑥ 全てを失くしても、
その日その日を生きる...
若さゆえに
できるのか?!



②⑦ 山梨県ゆかりの
作者が綴るかけが
えのない人を想う
切ないひと時



②⑧ ある家族の
波乱万丈な日々...
笑って泣いて、
勇気をもらおう!



②⑨ レーエンデの
夜明けはもうすぐ
だと信じて!



②⑩ 『足りなさを味わう』
独歩ちゃん／著 百万年書房

ちやちやつとすませたい日におすすめ
の時短レシピ、その名も「そ〜ん」の草
茶漬け!。不思議なレシピの数々に味覚
崩壊?里山暮らしのエッセイとしても
楽しめる新感覚のレシピ本。

②⑪ 『定年物語』
新井 素子／著 中央公論新社

夫の定年を機に自分の家事負担を軽く
してもらおうと画策する妻と、趣味人
として人生を謳歌する夫の熱き戦い、こ
に始まる!夫の家事のタメにぐうにイライ
しながらも、どこか憎めない楽しい熟年
生活を描いた作品。

②⑫ 『世界の不思議な自然のことは』
ケイト・ホッジス／文 前田 まゆみ／訳
ヤン・シオ・マーン／イラスト かんき出版

季節のうつろいなどを表す言葉が世界中
にこんなにあるのかと感動。(まだこれ一部)
言葉が生まれた背景にときめき、香りをも
感じるような美しいイラストに心を奪われ
る。お気に入りのことはを採りにどうぞ。

②⑬ 『あの鐘を鳴らしたのはわたし』
秋山 気清／著 音楽之友社

大阪にお店を構える喫茶店マチカネ。
閉店するにあたり月に一度「待兼山奇談
倶楽部」が開かれることに。読み進めてい
くと違和感を覚えるが、最後まで読むと
その理由がわかる。不思議で温かい物語。

②⑭ 『今夜、喫茶マチカネで』
増山 実／著 集英社

21年間合否の鐘を鳴らし続けた著者。
のど自慢の舞台裏や有名大・有名オケ出
身ならではのエピソードが満載。のど自慢
が大好きで予選会経験者のわたくしの今
年度イチ推し本です!

②⑮ 『赤パンラプソディ』
桐衣 朝子／著 小学館

シリーズ一冊目から主人公たちと一緒
に革命の旅を続けている。これはシリーズ
四作目。いよいよ物語も佳境に入り、全貌
が明らかに。なつていく予感。普段ファンタジー
にはあまり手を出さない私がこんなにも心
奪われることになるなんて。

②⑯ 『レーエンデ国物語 夜明け前』
多崎 礼／著 講談社

編集後記
「図書館職員が全力でおすすめする本」。
早いもので5回目となりました。今回は、
2024年に発行された新刊本の中から、
図書館のスタッフが「ぜひ、たくさんの方に
おすすめしたい!」と思った1冊を推し
本を厳選して紹介しています。読者の
ハートをつかむため、30文字に込めた
キャッチコピーにも注目して、ぜひ手に
取っていただけたらうれしいです。
(あーちゃん)

②⑰ 『正しき地図の裏側より』
逢崎 遊／著 集英社

父の言葉に激昂し雪の中で父を殴り飛
ばした耕一郎は、意識を失くした父を放
置して逃亡する。行き着いた先は都会の
公園の隅。最低な生活でも諦めず懸命に
生きる耕一郎に、関わる人々にも変化
が訪れる。

②⑱ 『夜空の切手』
安東 みきえ／著 nakaban／元 佼成出版社

「ぼく」が短く静かに語る、じいちゃんとの
思い出。躍動感ある雄大で幻想的な背景。
重なり合ったこの世界に引き込まれ、最後
は心がきゅんと締め付けられる。大切な人
に感謝したくなる、大人にもお薦めの絵本。

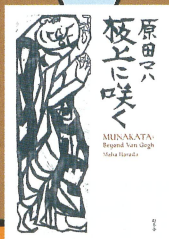
②⑲ 『夜明けの切手』
桐衣 朝子／著 小学館

個性の強い四人と一匹の暮らしは、一
筋縄ではいかない。著者自身の人生をベ
スにした遠征小説に勇気をもらおう。家
族って、それぞれが抱えているものもある
いるあるけれど、やっぱり家族っていいあ
と思える素敵な一冊。

キャッチコピー
選手権!!

あなたの
心をつかむ
キャッチコピー
はどれ?
読書心をくすぐる
キャッチコピー
を見つけたら、
紹介文へGO!

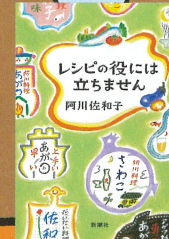
① まっすぐに
「板画」の道につき
進む熱量は
ハンパない!!



② 何気ない
日常の中には、
美しい言葉やモノが
たくさんある!



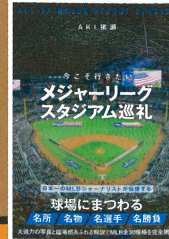
③ 分量なんて聞かないで!
作り方も聞かないで!
料理はレシピにあらず!



④ 日記は
人さまの生活を
のぞき見るようで、
ちょっとわくわくする。



⑤ あのスタジアムに
歴史あり!
このスタジアムに
ドラマあり!
君はどこ行く?



⑥ 子どもたちの心を
一瞬にして捉える
タイトルに惹かれ、
思わず読んでみた!



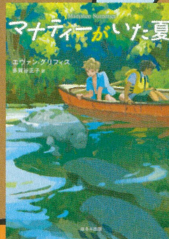
⑦ 「ウィキペディアタウン」
って何?
「ウィキペディア」
とどう違うの?



⑧ 『黒い家』で
衝撃を受けたわたし。
貴志祐介はやっぱり
裏切りませんでした!



⑨ 11歳には
11歳なりの悩みが。
少年ピーターを取り巻く
友情・家族の物語。



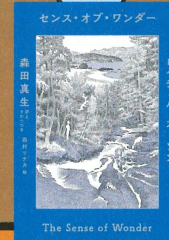
⑩ すぐに得られる
答えでは、
たどり着けない
一杯がある。



⑪ 世界に一つ
オリジナルの革小物を
ハンドメイドで...



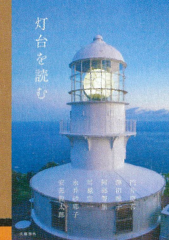
⑫ 独立研究者・
森田真生が
書き継いだ
新『センス・オブ・ワンダー』



⑬ 1年に1回、
自分だけの
「トクベツキュウカ」



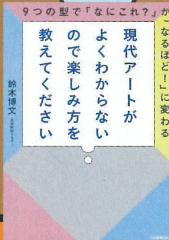
⑭ 私は三保松原に
行ったときに見た、
清水灯台から
読みました。



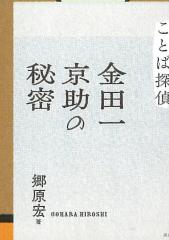
⑮ 「私はスパイス
みたいな人になる」
この言葉の意味は?
頑張れ要!



⑯ 「現代アート」は、
型にはめて
鑑賞する!



⑰ 金田一少年も
びっくり!
偉大なる「ことば
探偵」の真実...



⑱ あなたが好きな
お菓子はありますか?
読めば思い出が
蘇るかも...



⑲ 人間の言葉を
話す猫トラと、
不思議な世界へ
旅をしませんか?



本のプロが選ぶ

2024年 イチオシ本

2024年に発行された
本の中から、
「これは!」と思う本を
どど〜んと紹介します。



ぜひみんなにも
読んでほしいな!

① 『板上に咲く』
原田 マハ／著 幻冬舎
絵が好きで、画家を志した棟方志功は、ゴッホの「ひまわり」に衝撃を受ける。しかし、視力の衰えから画家を断念し、木版画の道へ。のちに木版の概念を変え、人々をあつと云わされるまでになった、世界のムナカタの奇跡。

② 『空と氷と花の名前』
北山 建穂／著 みらいパブリッシング
日本固有の和言葉や、古来より使用されていた日本の伝統色などが、四季の美しい写真と共に紹介されている。同シリーズの『雨と風と光の名前』や、『百色図鑑』もおすすめ。文字に疲れた方にぜひ読んでほしい。

③ 『レシピの役には立ちません』
阿川 佐和子／著 新潮社
だいたいの材料とだいたいの手順を確認したら、それから先は自己流に徹するのがアカガワ流料理! 真似をして良いのか悪いのか... 26品のエピソードには、料理に対する愛情や意気込み、発想の喜びが綴られている。

④ 『ある翻訳家の取り憑かれた日常』
村井 理子／著 大和書房
ノンフィクションの翻訳家。文献をとことん調べ、こつこつと訳を進めていく日々。そこに双子の高校生男子、大型の愛犬、さらには義父母の介護が加わったぎゅうぎゅうの日々。その彼女の勢いに元気をもらっている。

⑤ 『今こそ行きたいメジャーリーグスタジアム巡礼』
AKI 猪瀬／著 エクスナレッジ
MLBには、30のスタジアムがあり、いつかは行ってみたいものである。大谷、吉田、ダルビッシュ... 日本人選手の応援もよし! 松井や野茂... かつての選手に思いを馳せるのもよし!

⑥ 『うんこ虫を追え』
館野 鴻／文・絵 福音館書店
宝石のようにキラキラ輝くオオセンシコガネ。成虫の生態は知られていくが、地中にいる幼虫の生態は謎だらけ。著者が失敗に失敗を重ね4年の月日をかけ解明に挑む観察記。なぜ別名「うんこ虫」と呼ばれているかは、読んでからのお楽しみ。

⑦ 『ウィキペディアでまちおこし』
伊達 深雪／著 紀伊國屋書店
町歩きをした後、見たことについて調べて、ウィキペディアに記事を書くだけなのに、なんでこんなに楽しいんだろう。町歩きがあなたに新たな気づきを与える。ページをめくって、ワクワクドキドキの紙上体験へ。

⑧ 『さかさ星』
貴志 祐介／著 KADOKAWA
戦国時代から続く屋敷で起きた一家惨殺事件。その親戚である亮太は、祖母の依頼で霊能者賀茂禮子と共に調査を始めるが... あらゆる呪物に呪われた一家に抱く強烈な怨念と憎悪はいつた誰が何のために仕掛けたのか。そしてすべての条件が揃ったその夜、亮太は「呪物の理」から家族を救うことができるのか...

⑨ 『マナティーがいた夏』
エヴァン・グリフィス／作 ほるぷ出版
友人トミーの引越越しに心を痛め、認知症のおじいちゃんのお世話もだんだんと大変に! そんなとき、昔おじいちゃんが出会ったという幻のマナティーを運河で見かけたことから、ピーターを取り巻く環境に変化が起きる...

⑩ 『かんぱんのないコーヒー』
かめおか あき／作 ほるぷ出版
古本屋を営むオカミくん、自慢のどんぐりコーヒーは大人気。あるとき森の奥でどんぐりを焼く匂いが... そこには無愛想なくまスタがいて... 実在のコーヒー屋をモデルにした受け継がれし最高の一杯を描いた童話。

⑪ 『はじめての手づくり革小物』
アトリエ ネットレポート／著 KADOKAWA
道具や革、基本のテクニックについて、写真と丁寧な説明が付いているので、初心者にもやさしい一冊。普段使いの物も革で作れば、気分がアガる! こと間違いなし!!

⑫ 『センス・オブ・ワンダー』
レイチェル・カーソン／著 西村 ツチカ／絵 森田真生／訳とそのつぎ 筑摩書房
レイチェル・カーソンの未完の遺作を新たに訳し、二人の子どもの驚きと感動に満ちたかけがえのない瞬間を「つぎ」として描いた。美しい挿絵と共に、詩的で選び抜かれた言葉の数々に心が動かされる。

⑬ 『トクベツキュウカ、はじめました!』
清水 晴木／作 岩崎書店
好きな日に学校を休める特別な休暇。優柔不断な私は決断できずに年度末に焦りそう。この物語は、子どもたちがトクベツキュウカを通して、大切なものを見つけ成長する姿を描いた、五編の短編小説。

⑭ 『灯台を読む』
門井 慶喜 ほか／著 文藝春秋
作家たちが各地の灯台を巡り、その土地や歴史の物語を探る旅のアンソロジー。普段は入れない灯室や階段の描写は、一緒に連れて行ってもらう気分になる。推しの作家から読むのもよし、知っている場所から読むのもよし。

⑮ 『要の台所』
落合 由佳／著 講談社
中学生の要は毎日忙しい学校生活を送っていたが、ある日お隣に住んでいるサリタちゃんとお会いし、料理とスパイスを通していろんな事柄がみまから教えてもらって成長していく。そんな二人の姿がとてもしゃべりな物語。

⑯ 『現代アートがよくわからないので、楽しみ方を教えてください』
鈴木 博文／著 日本実業出版社
「アートの鑑賞なんてしたことない」「そもそも現代アートって何?」という人にもこそオススメの一冊で、作品の楽しみ方も、好きな作品の傾向も分かるようになるかも。読めばきっと美術館に行きたくなるはず。

⑰ 『ことば探偵金田一京助の秘密』
郷原 宏／著 双葉社
国語辞書に一番多く名を連ね、アイヌ語研究第一人者の金田一京助。その偉業の影に隠された波乱の生涯が甦る。詩人の石川啄木、民俗学の柳田國男、カミユカラの知里幸恵との交流など人間味あふれる彼の素顔が描かれた評伝!

⑱ 『うまいダッツ』
坂本 司／著 文藝春秋
とある高校の喫茶部。一年生のアラタ達四人は、いつも身近なお菓子を持ち寄り食べているため「おやつ部」と呼ばれていた。ある日、うまい棒一本で世界の秘密がわかるらしいという噂を聞いて... お菓子に纏わる青春連作短編集。

⑲ 『君を守ろうとする猫の話』
夏川 草介／著 小学館
本が好きな中学生のナナミは図書館から奪われた本を取り戻すため、言葉話す猫のトラと不思議な王国へと旅に出る。そこで奪った本を燃やしている灰色の男たちと出会い、闘うことになる。少女の大切なものを守る信念の強さと勇気をもらえる一冊。